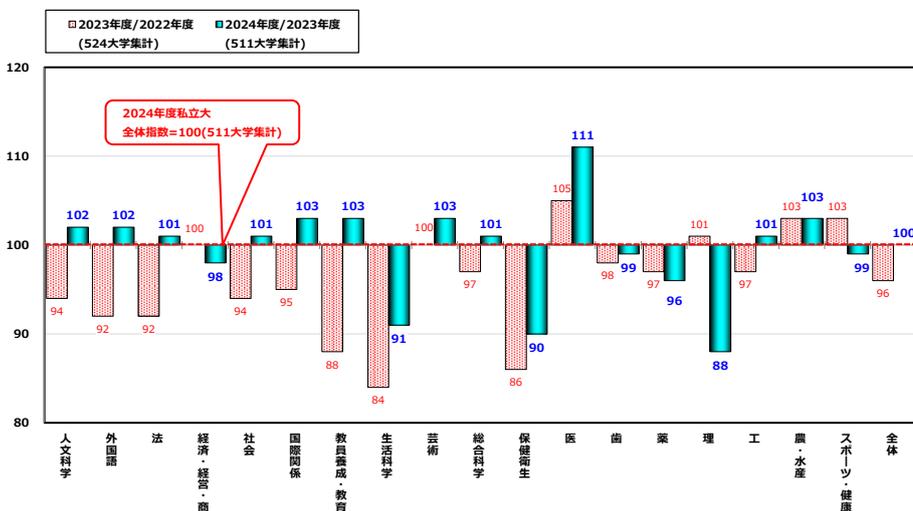


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎系統別志願状況・合格状況

□志願者数は医が増加、国際関係、教員養成・教育、芸術、農・水産がやや増加
理、生活科学、保健衛生が減少、薬がやや減少

〔私立大一般選抜 系統別志願状況〕



系統別では、前年度対比で医(111)が増加、国際関係(103)、教員養成・教育(103)、芸術(103)、農・水産(103)がやや増加となっています。一方で、理(88)、保健衛生(90)、生活科学(91)が減少、薬(96)がやや減少となっています。

医(111)の増加は、新課程入試を前に安全志向から併願校数増加の影響が見られます。文系の国際関係(103)はやや増加で、コロナ禍の

影響による志願者数減少の反動が見られます。その他の文系系統も経済・経営・商(98)を除き増加傾向が見られます。

文理両方から志望のある系統では、教員養成・教育(103)はやや増加で、前年度減少の反動が見られます。また、芸術(103)もやや増加です。一方で、生活科学(91)は減少で、前年度大幅減少の反動はなく、設置の多い女子大への低い人気も反映しており、さらに他系統の学部への改組が行われている影響もあります。

メディカル系の保健衛生(90)は減少で、資格取得系であることから特定の大学にこだわらず手堅く入学を確保できる「年内入試」志向の影響が見られます。薬(96)はやや減少で、医(111)の増加と対照的となりました。

理系では、理(88)は減少で、近年の高い人気の反動が見られます。農・水産(103)は前年度のやや増加に引き続きやや増加で、高い人気が続いています。

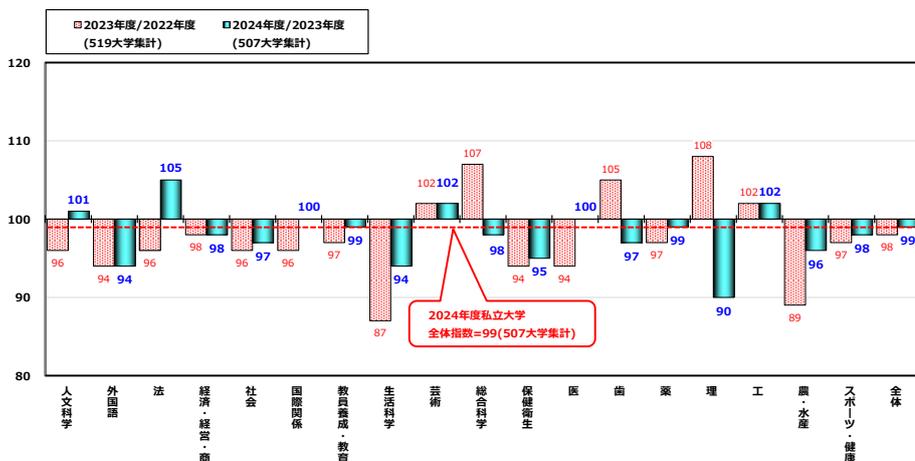
他の系統は前年度並(98～102)となっています。

以上のように、近年の一般選抜における「理高文低」の状況から、一転して理系に比べ文系の反動増が目立つ動向となっています。

□ 合格者数は法がやや増加

理が減少、外国語、生活科学、保健衛生、農・水産、社会、歯がやや減少

〔私立大一般選抜 系統別合格状況〕



左のグラフは、私立大一般選抜の系統別の延べ合格者数の前年度対比指数の過去2ヶ年を表したものです。

駿台が集計した私立大507大学の合格者数(99)は前年度並でした。系統別で見ると法(105)はやや増加でした。

一方で、理(90)は減少、外国語(94)、生活科学(94)、保健衛生(95)、農・水産(96)、社会(97)、歯(97)はやや減少でした。

次に、「合格者指数－志願者指数」の値を見ると、18系統中11系統がマイナス、6系統がプラスで合格者指数が志願者指数を下回り、競争激化の系統が多くなっています。特に、医(-11)、外国語(-8)、農・水産(-7)、社会(-4)、教員養成・教育(-4)の競争激化が目立っています。一方で、保健衛生(+5)、法(+4)、生活科学(+3)、薬(+3)は競争緩和です。